

朗読指導者 養成講座

2025年
4月開講

～朗読を深める～

Rodoku

講師陣 (講義日程順 敬称略)



山崎 広子



野田 尚史



斎藤 陽一



島内 裕子



猪熊 律子



加賀美幸子

作品を理解し、聞き手の心に届く朗読を深めることを目的としています。
朗読者だけでなく、日々コミュニケーションを必要とされる職業の方、
また、日常生活における円滑な人間関係を目指す方にも役立ちます。
ご一緒に、朗読力アップを目指して勉強しませんか。



NPO日本朗読文化協会

講師プロフィール

(講義日程順 敬称略)

R0



山崎 広子

やまざき ひろこ／国立音楽大学卒業後、音声生理学と心理学を学び、音響心理学、知覚認知心理学をベースに音声と脳の関係を研究。3万例以上の声の分析を経て、脳の発声回路から発声障害を改善する方法論を確立。歌手・政治家・ビジネスパーソンの声のコンサルティング、またヴォイストレーナーの育成も行う。著書は「8割の人は自分の声が嫌い」(角川新書)、「声のサイエンス」(NHK出版新書)他。ラジオや講演で声の素晴らしさを伝え続けている。一般社団法人「声・脳・教育研究所」代表。成蹊大学非常勤講師。



島内 裕子

しまうち ゆうこ／1953年生まれ。国文学者。放送大学名誉教授。東京大学大学院修了。博士(文学)。放送大学では、10科目以上のテレビ科目・ラジオ科目を単独で担当し、優秀授業賞を2度受ける。『徒然草』と吉田健一を中心に、『枕草子』『方丈記』樋口一葉、森鷗外、森茉莉なども視野に納めている。主な著書に、島内裕子校訂・訳の『徒然草』『枕草子・上下』(共に、ちくま学芸文庫)、『徒然草をどう読むか』『方丈記と住まいの文学』『響映する日本文学史』(共に、左右社)など多数。



野田 尚史

のだ ひさし／現職：日本大学文理学部教授 生まれ：1956年、石川県金沢市 学歴：大阪外国語大学イスパニア語学科卒業、同大学大学院修士課程日本語学専攻修了、博士(言語学) 職歴：筑波大学講師、大阪府立大学助教授・教授、国立国語研究所教授 著書：『日本語を分析するレッスン』(共著、大修館書店、2017年)、『なぜ伝わらない、その日本語』(岩波書店、2005年)、『日本語を話すトレーニング』(共著、ひつじ書房、2004年)など。



猪熊 律子

いのくま りつこ／1985年、読売新聞社入社。2014年、社会保障部長、2017年より編集委員。専門は社会保障。1998～99年、フルブライト奨学生として米スタンフォード大学ジャーナリスト向けプログラムに留学。早稲田大学大学院法学研究科修士課程修了。主な著書に「#社会保障、はじめました。」(SCICUS)、「ボクはやっと認知症のことがわかった」(共著、KADOKAWA)、「塀の中のおばあさん 女性刑務所、刑罰とケアの狭間で」(角川新書)など。政府の「高齢社会対策大綱の策定のための検討会」委員などを歴任。



斎藤 陽一

さいとう よういち／美術ジャーナリスト。美術史学会員。元NHKプロデューサー。東京大学教養学部教養学科卒。在学中に高階秀爾氏に西洋美術史を学ぶ。1965年NHK入局。主として教養番組、美術番組、スペシャル番組の制作に取り組む。教育TV「日曜美術館」の草創期のプロデューサー。NHK退職後は、各地で西洋美術や日本美術の面白さを伝える美術講座の講師を務める。



加賀美 幸子

かがみ さちこ／1963年NHK入局。在局中は、報道、教育、教養、音楽芸能番組等々幅広く担当し、女性初の理事待遇となる。現在も、ライフワークである古典の原文朗読を中心に講演、執筆など様々な活動を展開。NHK会長賞、ダイヤモンドレディー賞、前島(密)賞、徳川夢声市民賞など受賞。「NPO日本朗読文化協会」名誉会長、「千葉県男女共同参画センター」名誉館長、「放送人の会」理事、「NHK文化センター」講師、他。

doku

～朗読を深める～ 朗読指導者養成講座

2025年
4月開講

募集要項

主 旨	<p>この講座は朗読者に求められる幅広い人間性と朗読指導者としての高いレベルの知識及び指導法を体得することを目指して行うものであり、講座終了後、「修了証」を授与します。</p> <p>朗読の喜びや力を如何に伝えていくか。また、聞く人の心に届く朗読とはどのようなものか。その力を朗読者のものとするためには、朗読者自身の豊かな人間性と広い意味での朗読のノウハウを身に着けることが必要とされます。それらを総合的に学び、朗読を深めるのがこの講座です。</p> <p>朗読は人と人とのコミュニケーション力を付ける大切なスキルの一つです。朗読の基礎、表現法を学ぶことによって、話し方、声の出し方、発音、声の調子などあなた自身の表現も深まります。</p> <p>朗読はもとより、学校での生徒に良く伝わる授業、また、ビジネスの場での説得力あるプレゼンテーションなどの力を上げる事が出来ます。また、言葉の専門である各講師の指導を体験することによって、指導法を学ぶこともできます。</p> <p>NPO日本朗読文化協会はこの講座で培われた「朗読者」を通じて、広く社会貢献できることを目標としています。</p>
講座内容	<p>講座は1年間（月1回）を通して行われます。</p> <p>I：「基礎力」 ① 山崎広子／A 4月26日（土） B 5月24日（土） ② 野田尚史／A 6月28日（土） B 7月26日（土）</p> <p>1：音声学を基にし、朗読の元になる発声、朗読者自身が自分の声を知り、それを使いこなせるようにします。 2：言葉の基礎を基に、聞き手に伝えるには何が必要か、伝わる日本語を学びます。</p> <p>II：「表現力」 ③ 斎藤陽一／A 8月23日（土） B 9月27日（土） ④ 島内裕子／A 10月25日（土） B 11月22日（土） ⑤ 猪熊律子／A 12月13日（土） B 1月24日（土）</p> <p>魅力的な表現とはどのようなものか。また、そのためにはどのような様にすれば良いか。美術、文学、ジャーナリズムの視点から幅広く指導を受けます。</p> <p>まとめ：「朗読論」と朗読発表 ⑥ 加賀美幸子／A 2026年2月28日（土） B 3月28日（土）</p> <p>「朗読を深める」ために必要なものは何か。 これまで学んできたことの総括と受講者の朗読発表を行います。</p>

講座日程	2025年4月～2026年3月 原則月1回第4土曜日14時～16時 講義時間120分 ※講師の仕事の都合により、日程は変更する場合があります
募集対象	①朗読活動の指導者を目指す方 ②朗読活動の更なる進歩を目指す方 ③コミュニケーション技術の向上のために朗読を学びたい方 全ての講義に出席可能な方
受講料	協会員：80,000円 一般：100,000円 なお、支払い後の受講料返金には応じかねますのでご了承ください。 ※協会員としての申し込みは、在籍3か月以上の方に限ります ※分割支払いは、2回（申し込み時、及び9月）まで可とします
定員	20名（書類選考あり）
聴講生	各講座最多5名（ただし協会員限定。先着順で受付け、聴講可否は4月以降にご連絡） ※聴講の場合、講義に対する質問や相談はお受けできません。 ※参加費：1講座（A,B）6,000円（ただし2講座まで）
講座会場	東京都港区芝公園2-6-3 芝公園フロントタワー3階
募集日時	2025年2月7日(金)～3月15日(土)必着 3月末日までに受講の可否をお知らせします。
「修了証」の授与について	1) 講座最終日、全講座出席の受講者には「修了証」を授与します。 2) 止むを得ず欠席した講座は次年度にのみ再受講することができます。 但し、受講料：1講座（A,B）につき6,000円
申込方法	①ホームページから申し込みをされる場合 入力フォームからお申し込み下さい。 ②FAXまたは郵送で申し込みをされる場合 7ページの募集要項の申込書に記載の上、下記住所に2025年3月15日（金）〈必着〉までに郵送、またはFAXして下さい。 FAXでのお申し込み：03-6435-8356 郵送でのお申し込み：〒105-0003 東京都港区西新橋3-23-6 第一白川ビル3階B-2 NPO日本朗読文化協会 「朗読指導者養成講座」係宛
お問合せ	〒105-0003 東京都港区西新橋3-23-6 第一白川ビル3階B-2 TEL：03-6435-8355 FAX：03-6435-8356 E-mail: npo-rodoku@rodoku.org http://www.rodoku.org/



講座日程

講座日／講師名

講義名／概要

1

A 4月26日(土)
山崎広子

声を知る～声と脳と身体の不思議～

まず声帯、共鳴、呼吸、脳の発声回路などの基礎知識をお話しします。
〈声帯原音から声へ／声は究極の個人情報／聴覚と声／呼吸法の検証／
声は脳から身体を変える／脳が声を作り、声が脳を作る〉など。

B 5月24日(土)
山崎広子

オーセンティック・ヴォイスと声の心理学

前半は声と心のお話。後半は質疑応答で理解を深めます。〈自分の声を嫌う人が多い理由／声は心をどう動かすか／本物の声＝オーセンティック・ヴォイスとは／人はその声のように心身が構築される〉など。

2

A 6月28日(土)
野田尚史

日本語のあいまい文

「大きなおもちゃを入れてある箱」は「大きなおもちゃ」という意味か「大きな箱」という意味かがあいまいです。このような「あいまい文」はどんな構造を持っていて、どのようなときに生じるのかを考えます。

B 7月26日(土)
野田尚史

日本語のわかりにくい話し方

日本語を母語としない日本語学習者が日本語を聞いたときに、理解できなかったり違う意味に誤解したりすることがあります。そのような事例をもとに、どのような話し方が聞き手にわかりにくいのかを考えます。

3

A 8月23日(土)
斎藤陽一

「国宝『源氏物語絵巻』を読む～その絵画表現の特質～」

世界最古の長編小説「源氏物語」を主題にして平安末期に制作された「源氏物語絵巻」は、現在、19図が現存しています。それらは、一見すると動きの少ない静謐な画面に見えますが、じっくりと読み解くと、そこには、原作をよく読みこんだ絵師たちが込めた象徴性と精神性が浮かび上がってきます。その絵画表現の魅力と特質を味わいます。

B 9月27日(土)
斎藤陽一

A 第1回:「蓬生」「関谷」「柏木」「横笛」を読み解く

B 第2回:「鈴虫」「夕霧」「宇治十帖」を読み解く

【参考】2025年11月15日～12月7日まで徳川美術館(名古屋)で、現存する国宝「源氏物語絵巻」全図が公開展示されています。

4

A 10月25日(土)
島内裕子

批評文学の系譜をたどる

日本の文学は、712年に成立した『古事記』以来、現代に至るまで、1300年以上の長い歴史を持っています。その中で『古今和歌集』と『源氏物語』、すなわち、「和歌と物語」が、文学の玉座と呼べるほどの大きな存在でした。それに対して、私が担当する2回の講義では、「批評文学」という観点から、和歌でもなく、物語でもない文学作品を取り上げて、それらの文章の魅力に注目します。文体の中に、現代に直結する、物の見方や美意識があるのです。批評精神を支えているのは、簡潔明晰な文体です。その文体の魅力は、「朗読」によってこそ、現代人にも十全に伝わると 생각합니다。

B 11月22日(土)
島内裕子

A 第1回:「批評文学の先覚者としての、女性文学者の系譜」

中心となるのは清少納言の『枕草子』と、樋口一葉の文章ですが、現代の森茉莉も、清少納言と樋口一葉の系譜に位置づけたいと思います。

B 第2回:「批評文学を展開させた、男性文学者の系譜」

中心となるのは鴨長明の『方丈記』と兼好の『徒然草』ですが、近現代の森鷗外や吉田健一にも視野を広げてお話しします。

5

A 12月13日(土)
猪熊律子

どんな表現・伝え方が、今、求められているのか

新聞記者として、これまでいろいろな方にお会いし、さまざまな現場を歩いてきました。どんなテーマが「今」という時代を表し、読んでくださる方の役に立つのか。SNSなど新しい伝達手段やメディアが登場する中で、どんな書き方・伝え方が、今、求められているのか。これまでどのような取材をしてきたのか、何を伝えようとしているのかをご紹介します。非常に大切だと思っている「社会保障」についても、「社会保障報道」のあり方や、「社会保障教育」に込めた思いなどをお話しします。

B 2026年
1月24日(土)
猪熊律子

A 第1回:「認知症」について知る

著書:「ボクはやっと認知症のことがわかった」(共著、KADOKAWA)

A 第2回:「女性刑務所」に光をあてる

著書:「塀の中のおばあさん 女性刑務所、刑罰とケアの狭間で」(角川新書)

6

2026年
2月28日(土)
加賀美幸子

朗読を深める(1)

「朗読論」についてお話しします。

2026年
3月28日(土)
加賀美幸子

朗読を深める(2)

まとめとして、それぞれの「朗読論」と朗読発表

【受講申込書】

フリガナ 氏名		年齢	歳
職業	役職などできれば具体的に		
連絡先	住所		
	電話	携帯	
	メールアドレス		

【朗読活動経験】

1.あり(具体的に)

2.なし

【本講座への思い】

【受講後の活動予定】



NPO日本朗読文化協会

Since 2001